

理 科

教科の重点目標 科学的な考え方を身につけ、身近な事象に関心を持たせる。

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導の計画	検証（成果と課題）
第1学年	<p>◎考える力を伸ばす観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物・地学の分野などでは、教科書の内容を暗記するだけの生徒がいる。 ・結果から考察を導くことが苦手である。またこれを表現することが上手でできない生徒が多い。また、間違いを恐れて書くことのできない生徒がいる。 <p>◎習熟の程度に合わせる観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算による学力差が大きい。 <p>◎生徒による授業評価からの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に意欲的に取り組み、理科に対する興味関心を持っている生徒が多い。 <p>◎学力調査などから見られる課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の結果の考察の方法が理解できていない生徒が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の名称など暗記するだけでなく、相互の関係性や構造を示して理解させることで単なる暗記にならないように指導する。 ・よく考察できている生徒に発表させ、良い例を示すとともに、表現する力をつけさせる。内容が間違えていても、論理的に考えることができなければ評価する。 ・計算力を向上させるために、問題の解説の際には途中式や筆算の方法などすべてを板書する。 ・計算問題については演習を多く取り入れる。 ・身近な教材を用いて生徒の興味・関心が高めるとともに、実生活における活用や論理的な思考・判断の基礎を身に付けさせ、様々な事象に触れさせる。 ・実験や観察においても目的を明確に示し、目的に沿った結果の予想と考察に対するわかりやすい発問を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な模範的で興味関心の喚起の期待できる例を挙げるなどして興味関心を高め、単なる暗記にとどまらない指導をおこなう。 ・考察できている生徒の内容をクラスで共有することで、書き方がわからない生徒も書けるようにしていく。 ・実験結果を表にまとめて全体に提示し、考察しやすいような板書計画に努める。 ・課題が早く終わった生徒には、できていない生徒の先生役として教えるよう促す。答えを教えるのではなくやり方・方法について教えるようにし、学び合い活動で相互の理解を深める。 ・繰り返して練習できるようにワーク類の使い方の工夫を提案する。 ・ノートのまとめ方を自分なり進めることができることを伝える。 ・単元ごとにまとめプリントを用意し、知識の定着を図る。 ・苦手になりやすい分野や事象は具体的な事例から思考をめぐらせるよに実物を提示する。（例：密度の計算は1cm³の各金属の提示など） ・興味関心の深い生徒には、応用的な事象も挑戦できる環境を整え、選択して学習できることを伝える。 ・ペアやグループでの調べ学習を行い、学習内容の身近な活用例などを主体的・対話的に調べさせる。 ・理科室や1年生のフロアで各単元の開始から終了するまでの期間で観察・実験に関わる掲示物や展示物コーナーを設けて、自然と想起できる環境を整えて、学習活動に繋げる。 	